

18歳の
視点
参院選
II

社会に新風吹き込める

夏の参院選から、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ、県内でも16万人余りが新たに有権者になる。新有権者世代は、何を考え、悩み、政治や社会に対してどのような思いを抱いているのか。様々な若者の姿をリポートする。

「18歳は「大人」だと思ふ。進学や就職など、将来に関わる様々な選択を迫られるから。海外の多くの国でも18歳に選挙権がある。選挙権は、社会から大人と認められる一つのサインのようだと思うます」

父親の仕事の関係で小学4年生から約2年間、豪州で過ごした。現地校に通い、「文化的にも精神的にも多くの刺激を受けた」。帰国後、中学受験して横浜市内にある に入學した。

学校生活の中で力を入れた「模擬国連部」では、本物の国連で取り上げられた議題を、部員が各国の大使になりきって議論する。水不足、貧困、安全確保……。情報を集め、英語で資料を

さん 18



作り、スピーチする。各国の状況も踏まえ、自分たちなりの解決策を探した。自然と、海外や日本の社会情勢に目が向くようになった。「18歳選挙権」は授業でも取り上げられることが多

模倣国連部の仲間たちと話す さん(中央)

い。夏の参院選では、誕生日の週と同じクラスの中でも選挙権のある人とならないとに分かれる。「今度の選挙行ける?」「投票できていいなあ」。そんな会話が交わされている。

4月に18歳になったさんは、必ず投票に行くつもりだ。「投票が当たり前のものではないということ、忘れないうようにしたい」。選挙権は、先人たちが歴史的に勝ち取ったものだと言ふという。

「大げさかもしれないが、自分たちのような若者が1票を投じることで、社会に新しい風を吹き込めるのでは。大人だけど、大人じゃない。そんな自分たちの政治参加が、社会や政治を委ねるきっかけになるかもしれない」

先日、新聞の世論調査の記事を読んで驚いたことがある。18、19歳で参院選の

投票に「行く」と答えた人の割合が、「たぶん行く」と合わせても66%しかなかった。

メールなどで交流を続けている豪州の友人たちは、豪州も選挙権は18歳からだ。日本と違って投票は「義務」。正当な理由なく投票に行かないと反則金が科せられる。ただ、「それも一因だとは思いつけど、彼らももっと自分の意思を能動的に表明しているように感じる」と説明する。

豪州出身で、若者世代の社会活動や政治参加を研究する東京大教養学部付属グローバルコミュニケーションセンターのナオミ・パーマン特任講師(社会学)は「日本の若者の政治への関心の低さには驚く」と言う。母国では、「家庭や学校で、政治について話すことが普通」といい、日本の若者に対して「もっと活動的に、自分の世代のことを

考え、自分の手で未来を創ってほしい」とエールを送る。

豪州で投票率は毎回90%を超える。さんは「国には18歳選挙権の導入とともに、投票の重要性をもっと若者にアピールしてほしい」と訴える。若者の政治参加をいかに促すか。みんなで知恵を出し合い、議論したいと思っている。

— あなたにとって大人とは? —

正しい知識持っている人

さんに「あなたにとって大人とは?」と質問してみた。「正しい知識を持っている人。正しい知識がなければ、正しい

判断もできないから。大人には、多面的な視点が必要だと思う。だから自分は、まだまだ胸を張って大人だとは言えません」